

件は来年の第34回会合に持ち越された。ただし、日本が他国にさきがけて、2004年の国際会議の開催に積極的支持を表明したことは国連関係者、他の政府代表に強い印象を与えた。(阿藤 誠記)

中国インテグレ - ション・プロジェクト評価調査

2000年1月16日から1月29日まで、国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部の佐藤龍三郎室長ならびに佐々井司研究員、家族計画国際協力財団(ジョイセフ)の本間由紀夫シニア・プログラム・オフィサーの3名からなる中国インテグレ - ション・プロジェクト評価調査チームが中国に赴き、評価調査を実施した。今回の評価調査は、外務省海外技術協力推進団体補助金による人口・家族計画モデルプロジェクト推進事業による2つ(海南省瓊海市と陝西省大荔県)のインテグレ - ション・プロジェクト(IP)が実験期間を終えたことに対するものである。

評価調査チームは、海南省および陝西省のプロジェクト地区および対照地区の農村および郷鎮政府の施設等を訪問し、統計資料の検討、意識調査の分析、グループ・インタビューなどによって評価調査を実施した。ジョイセフの中国IPは家族計画、母子保健、寄生虫予防を組み合わせたインテグレ - ション・プロジェクトであり、今回の評価調査を通して、プロジェクト前後の5年間で着実な成果を収めたことが確認された。

資金・人材の不足、保健・医療・福祉・教育などの分野での施設・設備の不足、改善したとはいえ統計資料のわかりにくさなど依然として課題は多いが、今回の農村部訪問で近年の急速な経済発展に伴って人々の「生活の質」(また、これを高めたいという欲求)が着実に向上していることを実感した。中国側のIPに対する評価と今後の継続への期待にも高いものが感じられた。

(佐藤龍三郎記)

2000年アメリカ人口学会年次大会

アメリカ人口学会(Population Association of America)の2000年大会は、3月23日から25日にかけて、ロサンゼルスウェスティン・ボナベンチャー・ホテルで開催された。参加者1500人以上、正規分科会が150と盛況であった。本研究所からは佐藤龍三郎、岩澤美帆の両技官が参加した。佐藤・岩澤はポスターセッション3(Fertility and Family Planning)で“Reproductive Intentions and Fertility Control Behavior of Japanese Married Couples: Analysis of Pregnancy History”と題する発表を、また岩澤はポスターセッション2(Families and Children)で“The Transformation of Partnerships of Japanese Women in the 1990s”と題する発表をおこなった。

今回は家族や高齢化、国際人口移動といったテーマが目立ち、また今年アメリカでセンサスが実施されるのともなって、センサス関連の部会も設置されていた。また対象地域もヨーロッパやアジア、アフリカと幅広く、世界各国の大学や研究機関から参加者があった。2日目の午後にはメリーランド大学のSuzanne M. Bianchiが“Maternal Employment and Time with Children: Dramatic Change or Surprising Continuity?”と題する会長講演をおこなった。

(岩澤美帆記)